

# 「縄文のむらから古墳のくにへ」(東京書籍新しい社会6歴史編)を 歴博で授業しませんか

栄町立安食台小学校 後藤 薫

## 1 実施学年および教科・領域

小学校第6学年 社会科

## 2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名 「縄文のむらから古墳のくにへ」(東京書籍6年歴史編)

(2) ねらい

### ①学習指導要領との関連

本単元は、小学校学習指導要領の第6学年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」における(ア)「狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。」を受けて設定した。

本単元から歴史学習が始まるので、児童が歴史への興味や関心、学び方の見通しをもって学習に臨めるよう、博学連携で進めていきたいと考えた。本単元は、縄文時代のむらから弥生時代のくにへの変遷をとらえ、米づくりの広まりに伴い、各地に豪族や王が出現し、大和朝廷による国土の統一につながったことに気付けるようにする。導入時で提示する縄文時代と弥生時代の生活の復元模型や想像図では、人、食、住、道具等に注目して昔の人々の暮らしについて考えられるようにする。具体的に、どのような生活をしていたのか、世の中の様子はどのように変わったのかについて考えさせることで、米づくりの広まりにより、食を共にする人々の結びつきが強くなっていったことに気付かせる。また、人々が協力しあうことで、より効率よく食料を確保できるようになったという弥生時代の特徴を捉えられるようにする。そして、その後、地域ごとの地形や気候の違いにより収穫量の差が生まれ、土地や水、食料をめぐる争いが起きるようになったことに気付かせる。

### ②単元の目標

- 人々の生活の様子、遺跡や遺物などについて、遺跡や地図、年表などで調べる活動を通して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。
- 歴博の資料や教科書や資料集等の情報を整理して、むらからくにへと変化したことを理解している。
- 人々の生活の様子、遺跡や遺物などに注目して、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について考え、表現している。
- 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子をもとに生活や社会の変化と技術や文化の伝承とを関連付けて考え、適切に表現している。
- 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷による統一の様子について、予想や学習計画を立てて主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。
- 学習したことをもとに、縄文時代、弥生時代、自分が住むならどちらがよいかということ、それぞれの時代の人、食、住、道具の観点から考えようとしている。

### (3) 博物館との関連

#### ①活用方法

「来館型活用」「非来館型活用」

#### ②活用資料

授業実践場所	使用した資料
本校教室	歴博公式YouTubeチャンネル (動画と静止画) 「三内丸山遺跡」 「弥生時代の集落と社会の様子」 『「れきはく こどもたんけんたい」 国立歴史民俗博物館 紹介映像』

歴博ガイドスルーム	縄文時代「三内丸山遺跡から縄文人の暮らしを考える」〔歴博学校対応職員によるガイドランス（対面）〕
歴博第1展示室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三内丸山遺跡復元模型</li> <li>・さまざまな土器</li> <li>・朝日遺跡復元模型</li> <li>・高床倉庫</li> <li>・縄文時代の代表的な食用動資源</li> <li>・最古のイエネコ</li> <li>・ゴマフアザラシ</li> <li>・姥山貝塚の住居内に埋葬された人々</li> <li>・大塚遺跡復元模型</li> <li>・南方遺跡木製よろい模型</li> <li>・弥生女性（復元）</li> <li>・縄文人のメジャーフード</li> <li>・動物の飼育と利用</li> <li>・縄文人の一生</li> <li>・土偶</li> <li>・銅鐸</li> </ul>

参考文献・引用

国立歴史民俗博物館編「わくわく！探検 れきはく日本の歴史1」

吉川弘文館 2019年

歴史系総合誌「歴博」特集：日本列島の先史・古代～総合展示第1室リニューアル212号

歴史民俗博物館振興会 2019年（写真右）



(4) 指導観

私自身、今年度で博学連携は3期目になる。前々回（平成29年度・30年度）の『「新しい文化と学問」（教育出版）「町人の文化と新しい学問」（東京書籍）を歴博で授業しませんか』では、江戸文化の導入で「江戸図屏風」を活用して、第3展示室を教室代わりに活用して授業を実践する方法を研究してきた。前回（令和元年度・2年度）の『「今に伝わる室町文化」（東京書籍）「室町文化と力をつける人々」（教育出版）を歴博で授業しませんか』では、室町文化を歴博で授業できないかとテーマをもち、「洛中洛外図屏風（歴博甲本）」や第2展示室の「京都の町並復元模型」、第4展示室の能登・宇出津のあばれ祭りの展示物や映像資料を活用する研究を進めてきた。2回とも事後指導として、かるた作りを計画し、学習を振り返らせた。（前回はコロナ禍で授業実践ができず、実践計画で報告した。）また、授業中は、国立歴史民俗博物館編「わくわく！探検 れきはく日本の歴史」を常に携帯し、展示物の解説などに役立ててきた。

今回は、『歴博で授業しませんか』シリーズの第3弾、『「縄文のむらから古墳のくにへ」を歴博で授業しませんか』である。本単元の指導に当たっては、以下の点に留意して行う。① それぞれの時代は、前の時代を受けて次の時代へとつながっていることを意識づけるために、縄文時代と弥生時代を比較する活動を通して、時代の特徴をつかませる。そのことで、今後の歴史学習の学び方の基礎を培っていく。その際、非来館型として、第1展示室の三内丸山遺跡と大塚遺跡、朝日遺跡のジオラマを比べながら、当時の生活の様子を比べる。② 来館型では、児童の興味・関心において必要な資料を教師が紹介し、児童の資料活用力を高めていきたい。③ 自己決定の場を設ける。

「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」という発問をして、個人の考えを記述する場を設定する。児童は資料や見学をもとにしながらか々な考えを持つであろうが、最終的に自分自身でこの問いに対する答えを決定させるようにする。複数の資料から得た様々な情報を関連付けながらそれを根拠とし、自分なりの考えを持つことができるのではないかと考える。

3 指導計画（8時間扱い）

過程	時間	「小単元名」 ○指導目標 ●評価	使用した資料	実践場所	『わくわく！探検れきはく1日本の歴史』 掲載ページ
事前学習  実践の概要1	1 2	<p>「縄文時代と弥生時代の生活を比べよう」</p> <p>○縄文時代（三内丸山遺跡）と弥生時代（大塚遺跡、朝日遺跡）のジオラマを比べながら、当時の生活の様子を比べる。</p> <p>○NHKforSchool「歴史にドキリ」縄文時代と弥生時代を視聴する。</p> <p>●縄文時代と弥生時代の生活の様子を比較し、特徴を主体的に見つけようとしている。</p> <p>※「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」か、単元後に聞くことを予告する。</p>	<p>歴博公式YouTubeチャンネル 「三内丸山遺跡」 「弥生時代の集落と社会の様子」の静止画</p> <p>NHKforSchool 「歴史にドキリ」</p>	本校 パソコン室	<p>P14・15 定住生活のはじまり</p> <p>P16・17 動植物の利用方法</p> <p>P18・19 家族と社会</p> <p>P20・21 おそれ・いのり・まつり</p> <p>P24・25 水田稲作のひろがり と北と南の文化</p> <p>P26・27 戦いと死傷者</p> <p>P28・29 西のまつりと東のまつり</p> <p>P30・31 くらしとお墓</p>
事前学習	3	<p>「米づくり」「むらからくにへ」</p> <p>○米づくりが始まったころのむらや人々の様子をまとめる。</p> <p>○米づくりの広がりによって、むらの様子はどのように変わったかまとめる。</p> <p>○NHKforSchool「歴史にドキリ」卑弥呼を視聴する。</p> <p>●米づくりがさかんになり、人々の生活が豊かになったことを理解している。</p>	<p>歴博公式YouTubeチャンネル 「弥生時代の集落と社会の様子」の静止画</p> <p>NHKforSchool 「歴史にドキリ」</p>	本校 パソコン室	<p>P24・25 水田稲作のひろがり と北と南の文化</p> <p>P26・27 戦いと死傷者</p> <p>P28・29 西のまつりと東のまつり</p> <p>P30・31 くらしとお墓</p>
事前学習  実践の概要2	4	<p>「身近にある歴史を見つけよう・歴史博物館に行こう」</p> <p>○教科書P2～5に掲載している千葉県の博物館・遺跡等のマップを見て、身近に歴史を学ぶ場所があることを知る。</p> <p>○歴博紹介映像を視聴し、歴博について知る。</p> <p>※「たいけんれきはく」等、コロナ禍で活用できない物もあるので、補足する。</p> <p>○第1展示室リニューアルポスターを見て、ポスターから見られるもの等を想像し、見学の意欲をもたせる。</p> <p>●千葉県のマップから歴史学習に興味をもち、学んでみたいことをまとめる。</p>	<p>歴博公式YouTubeチャンネル 「れきはくこどもたんけんたい歴博紹介映像」</p> <p>ポスター 「先史・古代展示リニューアルOPEN」</p> <p>教科書P2～5に掲載している千葉県の博物館・遺跡等のマップ</p>	本校 パソコン室	<p>P78・79 たいけんれきはく</p>

<p>校外学習 実践の概要3</p>	<p>5</p>	<p>「歴博で縄文・弥生時代を見てみよう」 ○縄文（三内丸山遺跡の模型）・弥生（大塚遺跡、朝日遺跡の模型）のくらしに興味をもち、気づいたことをまとめる。 ※2時間目にYouTubeの静止画で学習したが、実際に模型を見ることで想像力をさらに膨らませる。 ※児童が興味をもったことについて、次の分類に分けられることが予想される。 ・衣 ・食 ・住 ・動植物 ・土器 ・家族 ・災害や病気等 →見学中、一人ひとりに声をかけ、特に興味をもったことについて見学できる展示コーナーを紹介する。 ●三内丸山遺跡の模型・大塚遺跡、朝日遺跡の模型から、関連性のある展示物をよく見て、関心をもって、縄文・弥生時代の様子をまとめることができる。</p>	<p>・三内丸山遺跡復元模型 ・姥山貝塚の住居内に埋葬された人々 ・さまざまな土器 ・大塚遺跡復元模型 ・朝日遺跡復元模型 ・南方遺跡木製のよい模型 ・弥生女性（復元） ・縄文時代の代表的な食用動資源 ・縄文人のメジャーフード ・最古のイエネコ ・動物の飼育と利用 ・ゴマフアザラシ ・縄文人の一生 ・多数合葬・複葬例 ・土偶 ・銅鐸 教科書P8・9</p>	<p>第1 展示室</p>	<p>P14・15 定住生活のはじまり P16・17動植物の利用方法 P18・19 家族と社会 P20・21 おそれ・いのり・まつり</p>
<p>事後学習 実践の概要4</p>	<p>6</p>	<p>「歴博見学を振り返って」 ○「歴博公式YouTubeチャンネル」 （「三内丸山遺跡」「弥生時代の集落と社会の様子」）を視聴して、歴博見学を振り返る。 ●歴博で見学したことを進んで振り返り、発表したり、ノートにまとめたりしている。 「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」 ○縄文・弥生時代の学習したことを振り返り、どちらの時代で生活したいか話し合う。 縄文 争いがない方がよい。 狩りや木の実を採って、食べつないでいく。 弥生 食料が安定している。 争いは嫌だが、しっかり守れば、きっと怖くない。 ●縄文・弥生時代の生活の様子について考え、衣食住の観点から住むならどちらか具体的に表現している。</p>	<p>歴博公式YouTubeチャンネル 「三内丸山遺跡」 「弥生時代の集落と社会の様子」</p>	<p>教室</p>	<p>P14～31 2 多様な縄文列島 3 水田稲作のはじまり</p>
<p>事後学習</p>	<p>7 8</p>	<p>「巨大古墳と豪族」 「大和朝廷と国土の統一」 ○巨大古墳や分布図、出土品などの資料を基に調べる。 ●古墳、大和朝廷による統一の様子を理解している。</p>	<p>教科書P18～21</p>	<p>教室</p>	<p>P44・45 前方後円墳も時代 P46・47 倭王と地方の王たち P48・49 地域社会のすがた P50・51 倭の外側にひろがる世界</p>

4 実践の概要その1 (1・2/8) 90分授業

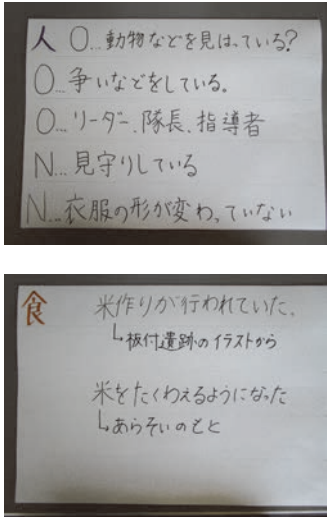
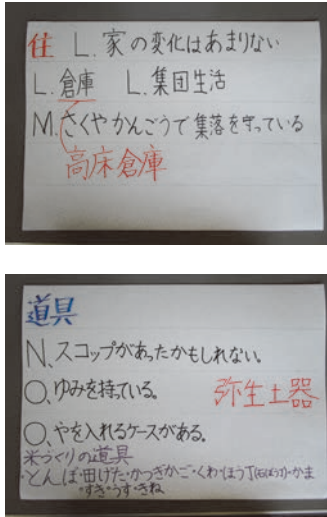
(1) 目標

- 縄文時代と弥生時代の生活の様子を比較し、特徴を主体的に見つけようとしている。

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点(○)と評価(●)	資料
5 5 30	<p>1 本時の学習内容を知る。 「縄文時代と弥生時代の生活を比べよう」</p> <p>○「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」か、本時の最後と、歴博見学後に聞くことを予告する。</p> <p>2 縄文時代(三内丸山遺跡)のジオラマを児童のタブレットに映し出し、「人」「住」「食」「道具」の観点から当時の生活の様子を想像し、ワークシートにまとめる。</p>	<p>○「人」「住」「食」「道具」の観点を示すことで、見るポイントを絞ることができると考え</p> <p>○「縄文時代の人々の1年の生活」(教科書P9・右図)も提示し、住まいや食事の様子を調べさせ、生活の様子を考えさせる。</p>	<p>歴博公式YouTubeチャンネル「三内丸山遺跡」の静止画</p> <p>東京書籍教科書P9「縄文時代の人々の1年の生活」</p>
	<p>人 H.子どもワンピース 大人、帯をまいている D.パジャマがあた?? 集団生活? 全カミが長い 全はだし 女の人のしほ、男の人のたまで</p>	<p>住 D.ゆかが高い場所にある。 D.木や草で家をつらている。 D.わら?の屋根 いろいろ? C.柱が太い。 B.アロミたいの形 B.まわりにびやいにあと(料理?)</p>	
	<p>食 B.栗をとっている。 D.食料にこまらない。A.お米がな I.木の実をとっている。 狩り(うまき?) J.縄文土器の中に木の実? 大とついている。 E.木の実をはいている。 魚は?</p>	<p>道具 D.食料の保かんに使うか? J.縄文土器(ねん土を焼いて完成) J.しく物を作っている(Cの家のゆかにおお) C.すりつぶす道具がある(木の皮など)</p>	
5 25	<p>3 NHKforSchool「歴史にドッキリ～縄文時代と弥生時代～」を視聴する。(この時間は縄文時代の部分のみ視聴)</p> <p>4 続いて、弥生時代(大塚遺跡、朝日遺跡)のジオラマを児童のタブレットに映し出し、縄文時代同様「人」「住」「食」「道具」の観点から当時の生活の様子を想像し、ワークシートにまとめる。</p>	<p>○「三内丸山遺跡」の静止画では取り上げられない指導内容を「歴史にドッキリ」の視聴で補う。</p> <p>○考えが書けない児童には話型を提示し、支援する。 話型 ～があるから…だろう。 ～は…に使われていただろう。 ～は、ぼくだったら…に使うよ。</p> <p>○大塚遺跡、朝日遺跡のジオラマでは、米づくりの様子が詳しくわからないため、教科書の「吉野ヶ里遺跡想像図」を活用する。</p>	<p>NHKforSchool「歴史にドッキリ～縄文時代と弥生時代～」</p> <p>歴博公式YouTubeチャンネル「弥生時代の集落と社会の様子」の静止画 東京書籍教科書P14～15「弥生時代の暮らし」</p>



			
5	5 NHKforSchool「歴史にドキリ～縄文時代と弥生時代～」を視聴する。(この時間は弥生時代の部分のみ視聴)	○大塚遺跡・朝日遺跡の静止画や「吉野ヶ里遺跡想像図」で取り上げられない指導内容を「歴史にドキリ」の視聴で補う。	NHKforSchool「歴史にドキリ～縄文時代と弥生時代～」
10	6 縄文時代と弥生時代の様子をまとめる。	●縄文時代と弥生時代の生活の様子のちがいを主体的に見つけようとしている。	
5	7 次時の予告をする。	○米づくりの広がりによって、むらの様子はどのように変わったのかについて学習することを伝える。	

縄文時代

- ・狩りや漁を中心とした暮らし。
- ・土器の登場で食生活が豊かに。
- ・遠い地域とも交流があった。

弥生時代

- ・弥生時代に米作りが発展。
- ・倉庫に蓄えられた食料、田や水、鉄の道具をめぐって、むらとむらで争いが起こった。



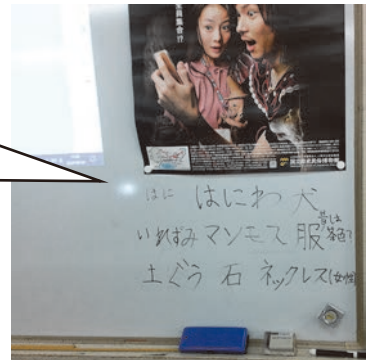


5 実践の概要その2 (4/8)

(1) 目標

- 千葉県には、いろいろな歴史博物館があることを知る。  
校外学習で出かける「歴博」の展示物や見学の仕方を知る。

(2) 展開



時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点 (○) と評価 (●)	資料
8 7 15 15	<p>1 教科書P2～5に掲載している千葉県の博物館・遺跡等のマップを見て、身近に歴史を学ぶ場所があることを知る。</p> <p>2 教科書の「まなび方コーナー」を参考にして、歴史博物館の利用の仕方を学ぶ。</p> <p>3 歴博紹介映像を視聴し、歴博について知る。</p> <p>4 第1展示室リニューアルポスターを見て、ポスターから見られるもの等を想像し、ワークシートにまとめる。</p> 	<p>○教科書を見ると、歴史博物館では体験コーナーを設けていることが多いことが印象的だが、コロナ禍の現在では、体験できる場所は少ないので、目によく見てくることを重視したい。</p> <p>○「たいけんれきはく」等、コロナ禍で活用できない物もあるので、補足する。</p> <p>○第1展示室リニューアルポスターを児童タブレットに映し出し、描かれているものを隅々までよく見ることで、実際に歴博で見れることを話し、見学の期待と意欲をもたせる。</p> <p>●ノートや発言の内容から、博物館で学んでいくことについて主体的に調べようとしているか」を評価する。</p>  	<p>「れきはくこどもたんけんたい」国立歴史民俗博物館紹介映像</p> <p>第1展示室リニューアルポスター</p>
	<p>このポスターから、実際に歴博で見たいもの。興味をもったものは…</p> <p>埴輪 土偶 アクセサリー マンモス (ナウマンゾウ) 縄文・弥生時代の服装 等</p>		

6 実践の概要その3 (5/8)

(1) 目標

- 三内丸山遺跡の模型・大塚遺跡、朝日遺跡の模型から、関連性のある展示物をよく見て、関心をもって、縄文・弥生時代の様子をまとめることができる。
- 一人ひとりがテーマをもって、歴博の館内を見学し、歴史に興味を持つことができる。

(2) 展開 (歴博第1展示室)

時配	学習内容と学習活動	指導上の留意点 (○) と評価 (●)	資料
20	<p>※ ガイダンス (縄文時代) 三内丸山遺跡から縄文人の暮らしを考える</p> 	<p>○ 2時間目に YouTube の静止画で学習したが、来館型の授業により、実際に展示物を見ることで想像力をさらに膨らませられると考える。</p> <p>○ 展示物を見るポイントとして、展示資料の名前を知る、つくられた年代を知る、解説を読む、近くにある関連性のある展示物を見る等を見学中に声をかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三内丸山遺跡復元模型</li> <li>・姥山貝塚の住居内に埋葬された人々</li> <li>・さまざまな縄文土器</li> <li>・大塚遺跡復元模型</li> <li>・朝日遺跡復元模型</li> <li>・南方遺跡木製よろい模型</li> <li>・高床倉庫</li> <li>・弥生女性(復元)</li> <li>・縄文時代の代表的な食用動資源</li> <li>・縄文人のメジャーフード</li> <li>・最古のイエネコ</li> <li>・動物の飼育と利用</li> <li>・ゴマフアザラシ</li> <li>・縄文・弥生土器</li> <li>・縄文人の一生</li> <li>・多数合葬・複葬例</li> <li>・土偶</li> <li>・銅鐸</li> </ul>
5	<p>1 本時の学習内容を知る。「歴博で縄文・弥生時代を見てみよう」</p>	<p>○ 縄文・弥生時代で興味をもったことは何か、一人ひとりに声をかけ、特に興味をもったことについて、関連性のある展示物を紹介する。児童自身が見つけれられるものは、自分で探すようにさせる。</p>	
5	<p>2 実際に展示物を見て、縄文(三内丸山遺跡模型)・弥生(大塚遺跡、朝日遺跡)のくらしに興味をもち、気づいたことをまとめる。</p>	<p>○ 興味深く見学している児童には、さらにこの道具が何に使われていたのか、どんな人がつくったのか、周囲にどのような影響を与えたのか、現在のヒトの暮らしと対比させる等、考えさせたい。</p> <p>● 縄文や弥生時代の様子に興味をもち、模型から当時の様子を読み取ろうとしている。</p>	
15	<p>3 模型から、縄文・弥生時代で興味をもったものの関連のある展示物を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣→弥生女性(復元)</li> <li>・食→縄文時代の代表的な食用動資源、縄文人のメジャーフード</li> <li>・建物→高床倉庫</li> <li>・動物→最古のイエネコ、動物の飼育と利用、ゴマフアザラシ・土器→縄文・弥生土器</li> <li>・家族→縄文人の一生</li> <li>・災害や病気等→</li> <li>・骨→縄文人の一生、多数合葬・複葬例</li> </ul> <p>その他 土偶、銅鐸</p> 	<p>○ コロナ禍以前では、1つの展示室のみに学級全員の児童が長い時間滞在し、授業を進めることができた。しかし、コロナ禍においては、歴博のガイドラインにより、今回の学習内容に深く関係する第1展示室に、10数人の児童が約15分の滞在しかいられない。つまり、他の児童は、その間、他の展示室で見学することになる。そこで、服装・食べ物・建物・祭り・髪型・農耕具等、テーマをもたせることにより、広い展示室を効果的に見学させたい。</p>	



歴博公式YouTubeチャンネル「三内丸山遺跡」の静止画

写真 A



写真 B



写真 C



写真 D



写真 E



写真 F



写真 G



写真 H



写真 I



写真 J



歴博公式YouTubeチャンネル「弥生時代の集落と社会の様子」の静止画

写真 L



写真 M



写真 N



写真 O



写真 P



写真 Q



写真 R



写真 S



## 7 実践の概要その4 (6/8)

### (1) 目標

- 歴博で見学したことを進んで振り返り、発表したり、ノートにまとめたりしている。

### (2) 展開

学習内容と学習活動	指導上の留意点 (○) と評価 (●)	資料
○「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」がよいか理由も書いて発表する。	○学習したことが生かされているか机間指導しながら確認する。 36人中 住むなら… 縄文時代；14人 弥生時代；22人	
<p>The table contains four photographs of student hand-drawn posters. Each poster has a title '縄文時代、弥生時代、住むならどっち?' (Jomon, Yayoi, which do you live in?). The posters show students' arguments for either the Jomon or Yayoi period, with reasons such as food quality, social stability, and agricultural progress. Red circles and lines highlight specific parts of the text in each poster.</p>		

## 8 成果と課題

- (成果) ・縄文時代 (三内丸山遺跡) のジオラマ (静止画) は、細部までよく観察でき、当時の生活を知るうえで、とても有効だった。また、このジオラマは「人」「住」「食」「道具」の4つの観点で考えさせることができる資料だったので、たくさんの数の資料でも、見るポイントを絞ってまとめることができた。
- ・歴博の資料で、縄文時代と弥生時代を比較することで、それぞれの時代の特徴をつかみ、問題意識をもって目を向けることができた。(指導観①と関連)
  - ・コロナ禍で制限はあったものの、教師の指導のもとで来館型の活用ができたことで、資料活用の力がついた。また、歴史学習の興味を持つきっかけとなった。(指導観②と関連)
  - ・「縄文時代と弥生時代、住むならどっち？」と導入時に発問することで、歴博の複数資料から得た情報を関連付けながら、自分なりの考えをもつことができた。(指導観③と関連)
  - ・『わくわく！探検 れきはく日本の歴史』シリーズの本が、縄文・弥生時代の授業にも役立った。
- (課題) ・弥生時代 (大塚遺跡、朝日遺跡) のジオラマ (静止画) では、米作りの様子を読み取ることが難しく、教科書の板付遺跡や吉野ヶ里遺跡のイラストの教材を活用した。他の展示物の活用も考えたい。
- ・これまで、江戸文化、室町文化、縄文・弥生時代の指導で博学連携を実践してきた。他の時代 (単元) でもする機会があれば、ぜひ実践してみたい。